



目の前の華やかな舞台に、楽しそうな表情

また来たい! 夢の世界との出会いに感激

シティ読者による「タカラヅカ、観劇体験レポート」

華やかできらびやかな世界を見せてくれる「宝塚歌劇」。その存在は知っていても、意外と「見たことがない」という人が多いのでは？そこで、シティ読者の阪本皓子さんと田中由佳子さんが、月組公演を上演中の宝塚大劇場へ。90年の歴史を誇る劇団の魅力を体験してきました。



「飛鳥夕映え 一蘇我入鹿一」

©宝塚歌劇団



©宝塚歌劇団



90周年、の記念ロゴの前で。その長い歴史に驚くふたり



阪本皓子さん

田中由佳子さん

ライブならではの迫力と、それから、親近感みたいなものを感じることができました。宝塚歌劇には、今回の月組だけじゃなくて、ほかにも組があって、演目もいろいろだから、観劇の度に違った楽しみを感じることができそう。今回は「和モノ」。だったので、次は「洋モノ」が見たいです!

一度は見てみたいと思いつながら、今まで機会がなかったのですが、見ることで良かった! とても楽しかったので、また観劇したいです。今度は、カレを誘ってみようかな…。

みるみる、華麗な世界に引き込まれる!

タカラヅカが好きなお母さんに連れられて、子ども頃に観劇をしたことがあったという阪本さん。「タカラヅカは久しぶり。演じているのはみんな女性なのに、男役の人がさげなくつていましたが、意外に男性のしぐさがありました。夫と一緒に驚いた覚えがあります。観劇してはいる人もいて、みだっただけです。だから、何か、いいですね。」



「タカラヅカ絢爛(けんらん) 一灼熱のカリビアン・ナイト一」

©宝塚歌劇団

ライブならではの迫力に感動

当日の演目は、王朝ロマン「飛鳥夕映え 一蘇我入鹿一」と、ラテン・ファンタジー「タカラヅカ絢爛(けんらん) 一灼熱のカリビアン・ナイト一」。飛鳥時代の和を舞台に、大きな夢を持って生きた蘇我入鹿の激しい青春を描いた「飛鳥夕映え」。中臣鎌足なども登場する歴史物語に、田中さんは「ストーリーがちょっと難しけれど、意外に楽しかったです。華やかで、これぞタカラヅカ!って感じ、それから、生のオーケストラの世界に入り込まれました。クラシックの蘇我入鹿が死ぬ場面では、「悲しくなりました。より楽しめる気がします」と。トップスターの彩輝直のほか、この公演では、90周年ならではの企画で、花組・瀬奈じゅん、雪組・貴城けいなどが特別出演し、より一層華々しい雰囲気。「男役はやっぱ、カッコイイですね。ファンになる人の気持ちが変わりました」と田中さん。タカラヅカの魅力に触れることができたようです。

メジャーなアーティストとのコラボにも注目

★
星組
公演

壮大な歴史ロマンが展開される、
「花舞う長安 一玄宗と楊貴妃一」
10月1日(金)～11月8日(月)



©宝塚歌劇団

宝塚歌劇では、組によって趣の違う舞台を見ることができるのも魅力です。例えば、10月1日(金)～11月8日(月)の星組公演は、ダイナミックな舞台姿が目玉のトップスター・湖月わたるらしい、スケールの大きい舞台が期待できそう。

演目は、歌劇「花舞う長安 一玄宗と楊貴妃一」、グランド・ショー「ロマンチカ宝塚'04 ドルチェ・ヴィータ!」。今回の星組公演では、河村隆一がオリジナル曲を提供していることも話題。宝塚歌劇90周年の記念すべき年にふさわしい、ビッグなアーティストとのコラボレーションは注目です。この公演を機会に、タカラヅカの世界を体験してみたい?

Story 「花舞う長安 一玄宗と楊貴妃一」

中国唐王朝の第六代皇帝・玄宗(湖月わたる)の前に、天下の美女と称される玉環(後の楊貴妃/檀れい)が現れる。妃を亡くし、失意の底にある玄宗は玉環を気に入り、彼女への愛に夢中になり、皇帝としての執務もおろそかになっていく。やがて民衆の心は玄宗から離れ、反乱へと向かっていく中、楊貴妃は自らの命を捧げることで玄宗への愛に応えようとして…。

互いに深く愛し合いながらも、権力や歴史に翻弄される二人の、激しくも悲しい愛の物語が、絢爛な中国王朝を舞台に繰り広げられます。